

## 〈日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定〉

### 1. 投稿規定

#### 1.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように、原稿は全て、コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する。一般的なワープロソフトを使用し、ソフト名を明記する。字体、サイズ、行の字数、行間、などの体裁は自由とする。また、図表については、写植でそのまま掲載できるものを提出するが、挿入箇所を本文に指定する。図については天地を明示する。印刷の際に、縮小または拡大する場合があるので、考慮すること。また、図表の題や説明はワープロで、本文とは別頁に添付する。

#### 1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが、編集委員会が依頼することもありうる。日本語、英語を問わない。タイトル、著者名、所属は次の様式にしたがう。

Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1\*1307.

Toshihiko Kaneshige<sup>1)</sup>, Mitsuo Hashimoto<sup>2)</sup>, Yayoi Murayama<sup>1)</sup>, Tomoko Kinoshita<sup>2)</sup>, Tsutomu Hirasawa<sup>1)</sup>, Kiyohisa Uchida<sup>1)</sup>, Hidetoshi Inoko<sup>3)</sup>

- 1) Shionogi Biochemical Laboratories, Shionogi Company, Osaka, Japan
- 2) Kidney Transplantation Center, Hyogo Prefectural Nishinomiya Hospital, Hyogo, Japan
- 3) Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan

HLA class II の DNA typing と MLC

能勢 義介<sup>1)</sup>, 稲葉 洋行<sup>1)</sup>, 荒木 延夫<sup>1)</sup>, 浜中 泰光<sup>1)</sup>, 阪田 宣彦<sup>1)</sup>, 土田 文子<sup>2)</sup>, 辻 公美<sup>2)</sup>, 成瀬 妙子<sup>3)</sup>, 猪子 英俊<sup>3)</sup>

- 1) 兵庫県赤十字血液センター, 検査課
- 2) 東海大学医学部, 移植免疫学
- 3) 東海大学医学部, 分子生命科学

内容は、要約 (Summary), はじめに (Introduction), 材料と方法 (Materials and Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 参考文献 (References) の順に記載する。また、要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを加える(英文の場合には英語の Key words を加える)。脚注は適宜、設けてもよい。日本語で投稿の場合には、末尾に英語のタイトル、著者名、所属(様式は上述に従う)、英語の要約と英語で5語以内の Key words をつける。枚数に特に指定はないが、速報的な短報(全体で、2,000 ~ 3,000 字、出来上がり A4 版で2~4枚程度)を中心とする。もちろん、フルペーパー(full paper)も歓迎する。なお、参考文献(References)の記載については、下記1.5を参照すること。オリジナル1部にコピー3部を添えて、編集長宛(下記3参照)に送付する。

#### 1.3. 総説, シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル、著者名、所属は上記1.2.の通りにしたが、要約と要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを添える。その他の体裁は自由とするが、構成がいくつかの章、節などから成る場合には、次の番号に従い、適当な見出しを添える。

1. 2. 3. 4. ....
- 1.1. 1.2. 1.3. 1.4. ....
- 1.1.1. 1.1.2. 1.1.3. ....

脚注は適宜、設けてもよい。なお、参考文献(Refer-

ences) の記載については、下記1.5.を参照すること。

#### 1.4. 校正

校正は編集委員が行い、特別な場合を除き、執筆者は校正を行わない。

#### 1.5. 参考文献

参考文献は、本文中に数字で、例えば (3), の様に表示し、末尾にまとめて、次のようなスタイルで記載する。ただし、著者名、または編集者名は、筆頭3名まで記載し、以下は省略する。

1. Kaneshige T, Hashimoto M, Murayama A, *et al.* : Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52 - associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1\*1307. *Hum. Immunol.* **41** : 151-160, 1994.
2. Inoko H, Ota M : *Handbook for HLA Tissue - Typing Laboratories* (eds. Bidwell J, Hui KM), PCR - RFLP. CRC Press, Boca Raton, 1993; p.1-70.
3. 能勢義介, 稲葉洋行, 荒木延夫ら : HLA class II の DNA Typing と MLC, 輸血, **39**: 1031-1034, 1993.
4. 猪子英俊, 木村彰方 : 岩波講座分子生物科学11巻, 生物体のまもりかた (本庶佑編), 自己と他の識別, 岩波書店, 東京, 1991; p.129-194.

#### 2. 別刷

原著論文については、別刷は有料とする。その費用は部数、頁数による。

#### 3. 原稿送付先

〒259-11 神奈川県伊勢原市望星台  
東海大学医学部 分子生命科学系遺伝情報部門 日本組織適合性学会誌 MHC  
編集長 猪子 英俊  
TEL: 0463-93-1121 内線2312  
FAX: 0463-94-8884

## 編集後記

先日、小林編集委員に教えられ、インターネットを利用してHLA抗原系のDNAシーケンスのデータベースを取り寄せた。本誌本号に、小林編集委員が紹介している“最新アリアル情報”のデータである。このデータベースには、A遺伝子58種、B遺伝子126種、C遺伝子38種、DRA1遺伝子2種、DRB1遺伝子135種、DRB2遺伝子1種、DRB3遺伝子5種、DRB6遺伝子3種、DRB7遺伝子2種、DRB8遺伝子1種、DRB9遺伝子1種、DQA1遺伝子15種、DQB1遺伝子25種、DPA1遺伝子8種、DPB1遺伝子65種のDNA塩基配列が納められている。クラスI抗原の発見から三十余年、クラスII抗原の発見から二十年弱で、よくもこれだけ多くの遺伝的多型の研究が進んだものと、改めて驚かされる。多くの研究者の努力の誇るべき結果である。

このデータを見ているとHLA遺伝子の遺伝的多型の大きさと変異の激しさに今更ながら驚かされる。今後更に発見されるであろう多くの新たな遺伝的多型（マイナーな塩基配列の違いを含めて）を考えると、いったいどれだけの種類のシーケンスが人間の中に存在するのであろうか。ちなみに、遺伝子頻度も、連鎖不平衡も全く無視して、理論上可能なハプロタイプの組み合わせは、A, B, C, DRB1, DPB1遺伝子座の組み合わせで約24億通りとなり、個人が2つのハプロタイプを持つとすると、全く同じ2つのハプロタイプを持つ確率は地球上の全人口を超える数字となる。つまり遠い古代から現在までの間に何らかの血縁関係が全く無い人間どうしが全く同じ二つのハプロタイプを持つ可能性が無いことになる。遺伝子頻度や連鎖不平衡の厳密な考察無しにこのような計算をしてみても単なる机上の空論ではあるが、それにしても大きな遺伝的多型ではある。

最近、一部の移植外科医の間でこのように複雑に細分化されたHLA抗原型をドナーとレシピエント間でマッチさせるのはもはや困難であり、新しい免疫抑制剤の発見もあることから、HLA抗原型のマ

ッチングは必要無いのではないかとの考えも述べられている。組織適合性学会会員としてははなはだ乱暴な、残念な考え方と言わざるを得ないが、遺伝的多型がこのように大きくては、移植外科医の言い分にもまたもっともな部分もありそうである。ここは何とかしてHLA抗原系の遺伝的多型のどこが免疫学上重要で、どこはマイナーな違いなのかを整理する必要があると切に感じた次第である。(大谷文雄)

## MHC Vol.2(2) 掲載名簿訂正

## [追加]

日本組織適合性学会役員名簿  
評議員 平野 哲夫

## [訂正]

- ・家老 仁郎  
北多摩病院 婦人科  
〒182 調布市調布が丘4-1-1  
Tel: 0424-86-8111 Fax: 0424-85-2955
  
- ・佐藤 信也  
駒込赤十字血液センター → 東京都北赤十字血液センター
  
- ・柴 尚子  
葛飾赤十字血液センター → 東京東赤十字血液センター
  
- ・徳永 勝士  
東大医学部保健衛生学人類遺伝学  
→ 東京大学医学部人類遺伝学講座

---

*MHC*

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of The Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

1996年3月31日発行 2巻3号, 1996

定価 2,000円

発行 日本組織適合性学会 (会長 吉田孝人)

編集 日本組織適合性学会編集委員会 (編集担当理事 猪子英俊)

---

日本組織適合性学会事務局 (事務会計担当理事 十字猛夫)

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-31 日赤血液センター内

印刷・港北出版印刷株式会社

〒150 東京都渋谷区渋谷2-7-7